

令和5年子供に関する定点調査検討会議（第5回）

議事要旨

日時：令和5年10月25日（水）11:00～12:10

場所：都庁第二本庁舎10階一般会議室203

※オンサイト及びオンライン（Teams）の併用

参加者：○オンサイト出席

森田 明美委員・石賀 裕委員・小平 房代委員・田谷 拓之委員

○オンライン出席

伊藤 美奈子委員・西田 淳志委員・渡辺 由美子委員

（池本 美香委員は欠席、松原 康雄委員は委員辞退）

【議事】

（1）最終報告書（案）

（2）その他

【議事録】

（1）最終報告書（案）

○幸福度に関する重回帰分析について

- ・ 重回帰分析など統計的な処理をした上で考察することは極めて重要、ぜひ続けてほしい。
- ・ 今回の分析は、概念的に幸福度と類似しているものを重回帰分析で投入しているが、概念が近すぎるものは除くことが適切
- ・ 会議資料7ページの重回帰分析の結果は、今回の分析内容だけでは解釈が難しいものがある。
- ・ 幸福度は年齢によって性質が異なるため、年齢を区切って解析することは必要。
- ・ 介入点になるような項目を見出すための分析だと思われるため、社会問題への介入点になりそうな環境要因を中心に、幸福度との関連性の強さを見ていくと良い。実際に解析をやってみて、「関連がない」という結果も大事。

○親子や男女のギャップ分析について

- ・ 親子のギャップを見る目的や、どここのギャップを見る必要があるのか仮説を持つことが重要。
- ・ 反抗期に入る子供と、その前の子供とでは意識は全く違う。
- ・ 会議資料17ページの「育児への意識に関する男女のギャップ」は非常に興味深い。
定点調査の強みで、次年度以降ずっとデータを取り、データが変わるのか・変わらないのか見ていくことが重要。男女共同参画や育児参加を政策として推進する中、子供の将来像に対する意識の変化が生み出されているかを定点調査で見ていくことは有意義。
- ・ 会議資料16ページや18ページの結果から、男性は「子供が欲しいが育てたいとは思っていない」といったことが推察できる。女性が働きながら子供を育てることが日常となる中、

- 意識改革をしていく必要があるのではないか。そういったことが定点で見えていけるとよい。
- ・ 同年代の子供たちに、この調査結果をどう見るのかグループ討議してもらおうと、データの裏付けや結果の解釈の参考にできるのではないか。このような機会に子供の声を聴くことが大事。

○報告書全般について

- ・ 調査票についても公表したほうがいい。
- ・ 報告書冒頭に要旨をつけたほうがいい。
- ・ 重要なトピックに読者の注意が向きやすいように、報告書の構成を見やすくする工夫が必要と思う。

(2) その他

- ・ 特に意見無し。

以上